

議会改革特別委員会要点記録

○開会日時 令和6年2月5日（月） 午後1時30分

○場 所 伊東市役所第2委員会室

○出席委員 10名

1 番	佐 藤 周 君	2 番	鈴 木 絢 子 君
3 番	河 島 紀美恵 君	4 番	大 川 勝 弘 君
5 番	虫 明 弘 雄 君	6 番	篠 原 峰 子 君
7 番	杉 本 一 彦 君	8 番	四 宮 和 彦 君
9 番	田久保 眞 紀 君	10 番	犬 飼 このり 君

○出席議員 7名

議 長	中 島 弘 道 君	副議長	青 木 敬 博 君
議 員	重 岡 秀 子 君	議 員	村 上 祥 平 君
〃	杉 本 憲 也 君	〃	長 沢 正 君
〃	宮 崎 雅 薫 君		

○出席議会事務局職員 4名

局 長	富 岡 勝	局長補佐	中 井 智 実
係 長	福 王 雅 士	主 事	野 中 みず季

○会議に付した事件

- 1 予算・決算の審議・審査方法の見直しについて
- 2 今後の協議事項について
- 3 その他
 - (1) 次回開催日について
 - (2) その他

○会議の経過概要

○委員長（大川勝弘君）開会する。

○委員長（大川勝弘君）日程第1、予算・決算の審議・審査方法の見直しについてを議題とする。

本件については、前回の委員会において最優先協議事項とすることを決定し、本日から具体的な協議に入ることとしている。協議に当たり、前期の議会活動活性化協議会において示された、分科会方式を採用しての予算・決算特別委員会の設置を想定して議論を重ねていきたいと思う。

まず、予算・決算特別委員会を設置した場合の質疑の方法について協議を行っていきたいと思う。本件については、前期の議会活動活性化協議会において、大綱質疑を廃止し特別委員会においての総括質疑を導入との方向性に対し、お手元に配付の資料①のとおり、様々な検討を要すべき事項が示されている。質疑の方法については、これをどのようにしていくのか、その方針が定まることにより見直し案の大枠が固まることとなるかと思う。

まず、資料の内容について、事務局から説明いたさせる。

○事務局（福王雅士君） それでは、予算・決算の審議・審査方法の見直しに係る検討課題についてご説明させていただく。

まず、資料②をご覧ください。ここに記載した議会運営上の原則については、この後、検討事項、課題を協議していくに当たり焦点となってくる部分があることから、先にご説明させていただく。

まず、会議公開の原則である。地方自治法において「地方公共団体の議会の会議は、これを公開する」と規定されている。この主旨としては、会議の内容について議会が住民の代表機関であることから、その住民意思がいかに議会で反映されているか議会を監視し、議会の運営が公平に行われるようにすることが目的であると言われている。ここで言う議会の会議とは、本会議のことであり、常任委員会や議会運営委員会、特別委員会は含まれない。これは、委員会については議会の内部審査機関であることからとされている。また、公開については、傍聴、報道及び会議録の公表を行うことを指すとされている。

次に、委員会の制限公開主義についてである。この制限公開とは、委員会の会議については議員のほか、委員長の許可を得た者に限り傍聴を行うことができるとするものであり、議会の委員会において制限公開主義を採用している理由としては、委員会は議会における内部的審査機関であるため、その決定に対外的効力はなく、当該事件の本会議審査の判断材料にすぎないこと、腹藏のない意見を交換するところに委員会の本旨があり、傍聴人を意識しての原則論や宣伝的言論に走る弊害を避ける必要があること、また、審査内容は公開される本会議の場において委員長報告や委員会報告書により報告されるため、公開されないことの弊害が少ないことなどからとされている。

なお、法制上は、先ほどの説明のとおり地方自治法では、会議公開に関する規定の対象とならないことから、各議会において条例等での規定によることとなり、本市議会では標準委員会条例を準拠した伊東市議会委員会条例により規定している。

続いて、見直しに係る検討課題をご説明する。資料①をご覧ください。こちらは、前期における議会活動活性化協議会での協議において示された、分科会方式を採用しての予算・決算特別委員会を設置し、また、委員会において総括質疑を実施する場合に現時点で考えうる課題等を整

理いたしたものである。上から順に検討事項を説明する。

まず、本会議における質疑機会の確保についてである。こちらを検討していく上での課題としては、会議規則第38条により、議案の付託をする際には付託前に、本会議での質疑の機会の設定が必須であることから、どのようにその機会を設定していくかということになる。考える対応策としては、記載のとおり3つの案があるかと思う。

1つ目としては、現在行っている予算・決算大綱質疑を維持していくことが考えられる。2つ目としては、現在の補正予算審議のように、款別などに分けて質疑を行うことが考えられる。これについては、形式如何によっては議会の効率性の低下となることが考えられる。3つ目としては、本会議での質疑については「なし」との声で終結させ、委員会での総括質疑に委ねていく運用方法が考えられる。これについては、先ほど説明いたしたとおり、制限公開主義である委員会での予算審議が主となることから、議会の公開制の低下となることが考えられる。

次に、総括質疑の目的の明確化についてである。こちらは委員会での総括質疑をどのような目的とするかで議論が変わってくるかと思う。例えば、本会議での大綱質疑の代替として行う場合は、議会の公開制をどのようにしていくかや、これまで会派制を重視する本市議会として採用していたことから、その観点での議論が必要であると考えられる。また、活性化協議会の際にご意見があった、委員会での締めくくりの質疑として導入する場合は、会議日程の増加が課題になってくるかと思われる。

続いて、特別委員会の公開である。こちらは先ほどの説明のとおり、委員会のうち特別委員会のみを公開制とすることはできないことから、本市議会における委員会の制限公開主義をどのようにしていくのかの議論が必要であると考えられる。

次に、総括質疑を行う際の委員会の開催場所についてである。こちらは上記の検討事項如何によることとなるかと思うが、想定としては、全議員の席が確保されている議場が想定されるが、その際には、当局側の答弁者や答弁方法に配慮した委員会運営の検討が必要であると考えられる。

続いて、開催日程の増加である。こちらは分科会方式による特別委員会とした段階で、分科会報告を集約する全体会が必要となることからおのずと増加するものであり、それに加えて総括質疑を実施する場合は、それに応じた全体会が増加していくものと思われる。こちらは本会議での予算・決算大綱質疑の実施有無との兼ね合いや前回の委員会において今後の協議事項としてご意見があった常任委員会の同時開催の解消との兼ね合いなどと連動した議論の必要性があるものと思われる。

また、通告制での実施を想定した場合は、通告処理と委員長報告の作成時期が重なるなど事務的な都合にも課題があるものと思われ、加えて、本市の特性として議員改選期の9月定例会

の会期を見据えた中での議論が必要であると思われる。

最後に総括質疑の持ち時間であるが、こちらは様々な議論の結論から考えていくものであると考えられることから、現状で考えうる課題を記載してある。

以上で予算・決算の審議・審査方法の見直しに係る検討課題の説明を終わる。

○委員長（大川勝弘君）暫時、休憩する。

午後 1時38分休憩

午後 1時43分再開

○委員長（大川勝弘君）休憩前に引き続き、会議を開く。

ただいまの説明について、質疑を伺う。発言を許す。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大川勝弘君）質疑なしと認める。

まず、今後、審査方法等の見直しを行っていく上で、その前提として、予算・決算議案の分割付託については見直しを行っていくとの方向性でよいのか、改めて皆さんの意見を伺う。発言を許す。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大川勝弘君）ご異議なしと認める。これをもって、協議を終了する。

ただいまの協議により、分割付託については見直していくとの結論となった。

次に、質疑の方法については、先ほどの説明のとおり本議会の運営の方向性も踏まえた議論が必要であり、見直し案の核ともいえるべき非常に重要な要素であるため、どのような質疑の方法が望ましいのか、本日の協議を踏まえ、いま一度会派においてご議論していただき、次回の委員会において改めて協議を行いたいと思う。また、分科会開催日程についてであるが、この後、議題となる、その他協議事項において、常任委員会の同時開催の解消について提案がされており、本件と連動することから、次回こちらも併せた協議を行いたいと思う。

以上で、日程第1、予算・決算の審議・審査方法の見直しについてを終了する。

○委員長（大川勝弘君）日程第2、今後の協議事項についてを議題とする。

前回の委員会において各会派からご提案いただいた今後の協議事項について、一覧として取りまとめお手元に配付している。

本日は、その中から、今後優先的に協議を行っていきたい事項を決定したいと思う。なお、優先協議事項とならなかった提案についても、今後の当委員会の進捗やその時勢等に鑑みの中で、協議事項として取り扱うことも考えられるため、引き続きの調査・研究等は行っていく

いと思うのでご承知おき願う。

それでは、優先的に協議を行っていきたい事項について意見等を伺う。発言を許す。

○委員長（大川勝弘君）暫時、休憩する。

午後 1時46分休憩

午後 1時49分再開

○委員長（大川勝弘君）休憩前に引き続き、会議を開く。

これをもって、協議を終了する。

ただいまの協議に基づき、優先的に協議を行う事項については、次回また協議を行うこととする。これにご異議ないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大川勝弘君）ご異議なしと認め、さよう決定した。

以上で、日程第2、今後の協議事項についてを終了する。

○委員長（大川勝弘君）日程第3、その他を議題とする。

まず、(1) 次回開催日についてである。日程調整のため、暫時、休憩する。

午後 1時50分休憩

午後 1時51分再開

○委員長（大川勝弘君）休憩前に引き続き、会議を開く。

次回開催日程については、4月上旬をめどとし、改めて調整させていただく。これにご異議ないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大川勝弘君）ご異議なしと認め、さよう決定した。

次に、(2) その他について、委員から何かあれば質疑・意見を伺う。発言を許す。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大川勝弘君）質疑、意見なしと認める。これをもって、質疑、意見を終了する。

以上で、日程第3、その他を終了する。

○委員長（大川勝弘君）以上で日程全部を終了した。

委員会報告書の案文については正副委員長にご一任願う。

○委員長（大川勝弘君）これにて閉会する。

○閉会日時 令和6年2月5日（月）午後1時52分（会議時間13分）

以上の記録を認める。

令和6年2月5日

委員長 大 川 勝 弘